

令和7年度 公共事業再評価調書

(区分) 国補・県単

1. 事業説明シート

事業名		道路事業〔緊急道路整備改築事業(国補)〕		事業箇所	北杜市長坂町日野	地区名	(一) 横手日野春停車場線 (野猿返し)	事業主体	山梨県						
計画期間	当初計画	現計画	変更計画	④特記事項(関連事業概要等) (一) 日野春停車場線(鯨バイパス)H28~R12 L=1,160m W=5.5(7.5)m											
	R3~R7	~	R3~R13												
総事業費	250 百万円	— 百万円	420 百万円	⑤これまでの評価状況 なし											
(1) 事業の概要															
①事業目的及び効果 一般県道横手日野春停車場線は、北杜市白州町横手から北杜市長坂町富岡に至る全長約6.6kmの一般県道で、国道20号と主要地方道茅野北杜韮崎線や日野春駅とを連絡する路線となっており、主に通勤通学や地域の生活道路として機能する道路である。事業箇所内の「日野春隧道」は、昭和9年の供用後、86年が経過しており、老朽化が進行しているとともに、幅員は5.2mと狭く、普通車同士のすれ違いも困難な状況である。 隧道前後についても、道路の幅員が狭く、落石対策が必要な箇所が存在するなど、安全かつ円滑な通行が確保されていない。このことから、地域住民から早期の道路整備を強く要望されている。 □主要目標 ○災害に強い道路の確保 ・危険度(落石等):「要対策」あり ・損傷度等(トンネル):対策区分C ・緊急輸送道路の指定:指定なし ・自動車交通量:1,456台/12h(H27センサス)<3,340台/12h以上(平日)※ ※評価基準値 □副次目標 ○生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上 ・混雑時走行速度:31km/h > 30km/h以下※ ・自動車交通量:1,456台/12h(H27センサス)<3,340台/12h以上(平日)※ ※評価基準値 □副次効果 ○アクセス機能の維持(1箇所の通行止めで迂回に2倍以上の時間が必要)				②事業概要 道路改良 L=320m W=5.5(7.5)m ③全体計画											
									令和6年度まで			令和7年度 (評価実施年度)		令和8年度以降	
									現計画	工事内容	測量、設計 用地測量 用地補償 道路改良工事	道路改良工事 道路台帳整備			
										事業費	220 百万円	30 百万円			
									変更計画	工事内容	測量、設計 用地測量 道路改良工事	用地測量		用地補償 道路改良工事 道路台帳整備	
事業費	206 百万円	39 百万円		175 百万円											

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

凡 例
今回再評価箇所
事業中箇所

評価シート（２）

（４）事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R7年度進捗率（現計画）100%→（実績）98.0%→（変更計画）58.3%

②進捗率実績が計画と相違している理由

買収予定地の一部に境界問題が生じており、その解決に時間を要したことによる。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
隧道撤去 安全対策	60 百万円 増	隧道撤去工における安全対策費を計上した。
残土処理費 の増加	60 百万円 増	地質調査の結果、地質状況が想定と異なっていたため、切土勾配の変更により残土処理量が増加した。
落石対策 の追加	50 百万円 増	法面調査の結果から落石防対策工を追加した。
合 計	170 百万円 増	

※事業費増額には資材・労務単価上昇分を見込む

④事業期間の変更理由及び進捗予定

土地の境界問題の解決に時間を要していることにより、工事進捗が遅れているため、工期を6年間延長するが、用地取得が完了した区間から順次工事を発注して整備効果の早期発現に努める。

境界問題については、解決に向けて引き続き関係者間で協議・調整に努め、令和13年度の完成を目指す。

⑤今後の事業執行における留意点

引き続き未契約者との用地交渉に努めるとともに、道路改良工事にあたっては、適切な工程管理のもと、計画のとおり工事を進捗させる。

（５）環境負荷等への配慮

なし

（６）コスト縮減の可能性

なし

（７）代替案立案の可能性

なし

（８）所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他（ ）

（理由）

本区間は、国道20号と主要地方道茅野北杜葦崎線をつなぐ道路であるとともに、地域の生活道路として重要な道路であるが、日野春隧道前後は車同士のすれ違いができない交通の隘路となっており、地域の長年の懸案箇所である。

現在は、隧道撤去工事に着手し、整備効果を早期に発現させるよう努めているところであり、残区間については引き続き境界問題の解決に努め、変更計画に基づき令和13年度の完成を予定している。

〇別表-進捗率（事業費ベース）

算出方法：【上段】現計画の計画事業費／総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費／総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費／総事業費×100

単位：％

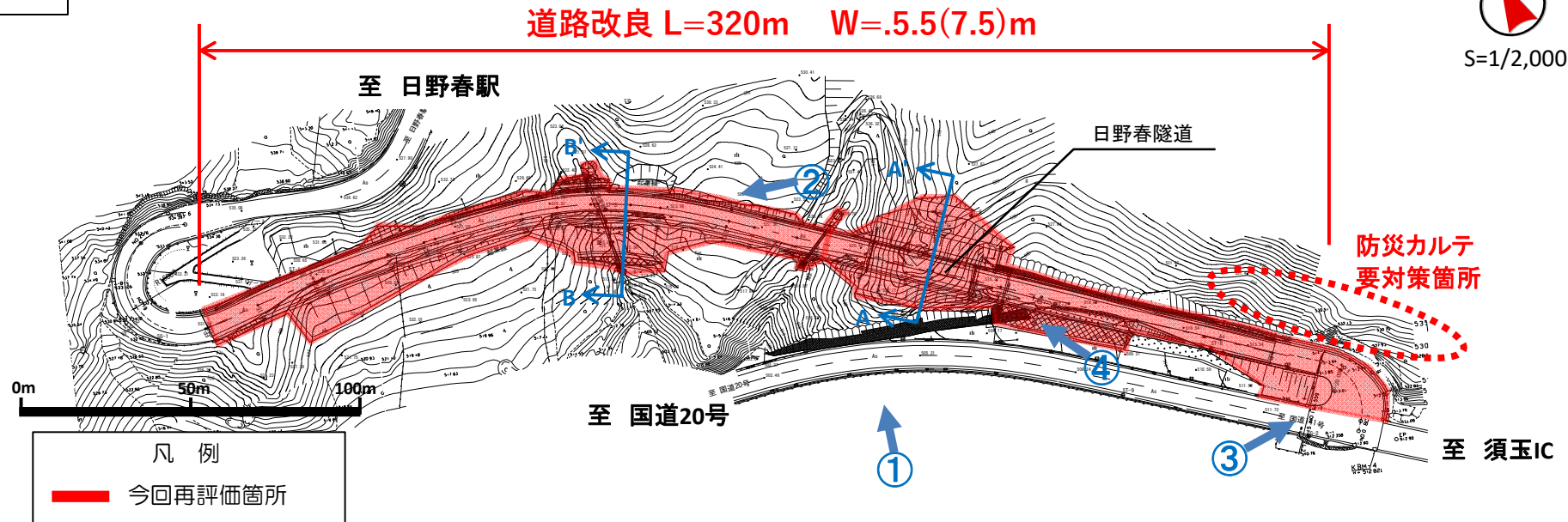
	年度	*R03	R04	R05	R06	*R07	R08	R09	R10	R11	R12	R13
現	計画	4.0	8.0	48.0	88.0	100						
	実績	9.6	14.0	15.2	82.4	98.0						
	変更計画					58.3	59.9	61.1	74.2	86.1	98.0	100

*事業着手年度又は評価年度

*R7年度の実績は見込み

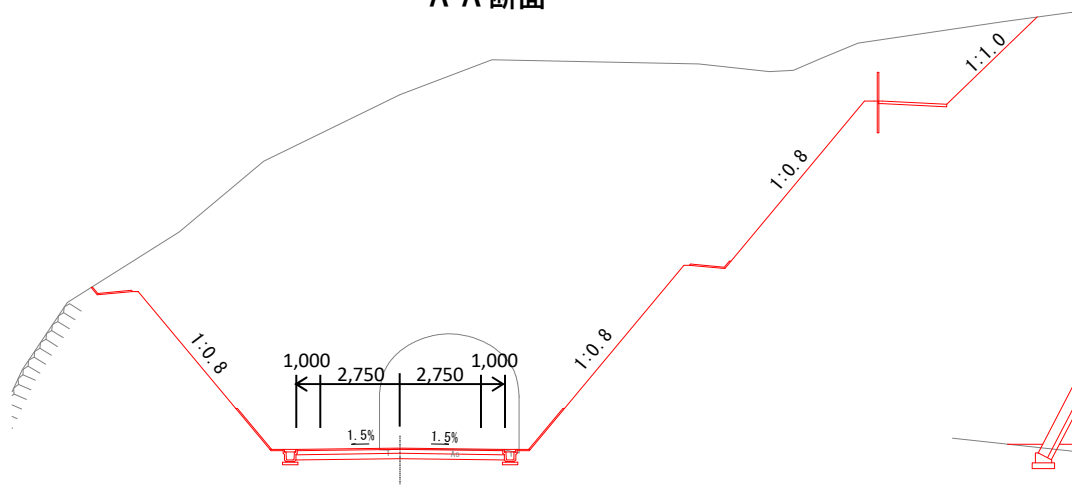
3.添付資料シート(1)

平面図

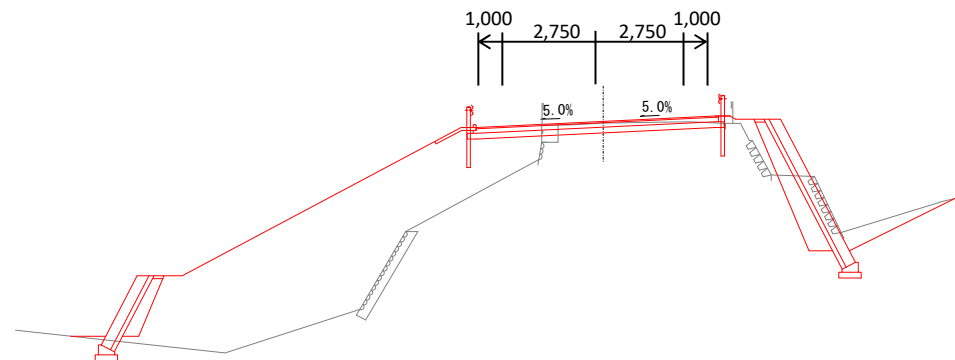


標準横断面図

A-A'断面

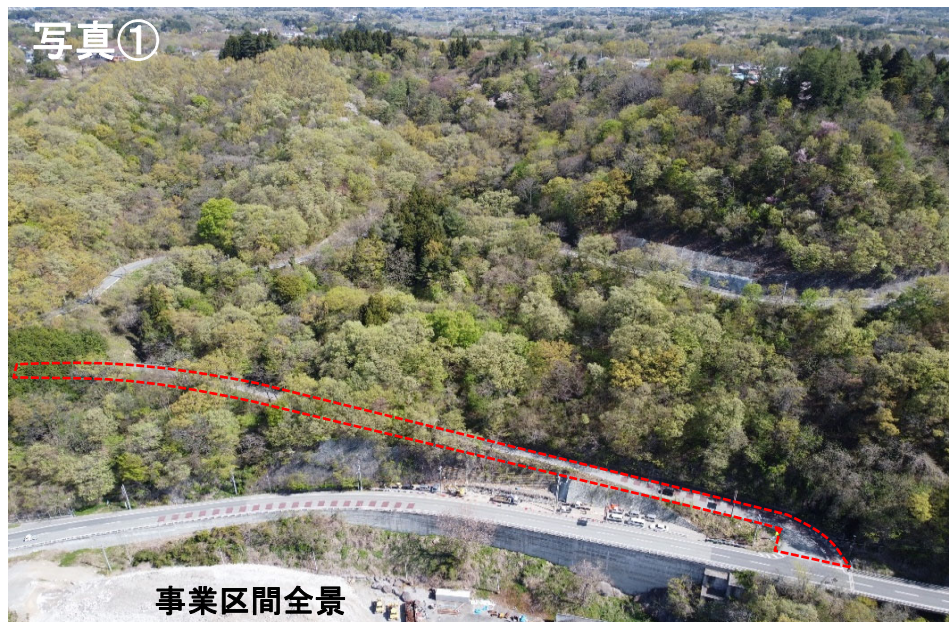


B-B'断面



3.添付資料シート（2）

写真①



写真③



写真②



写真④

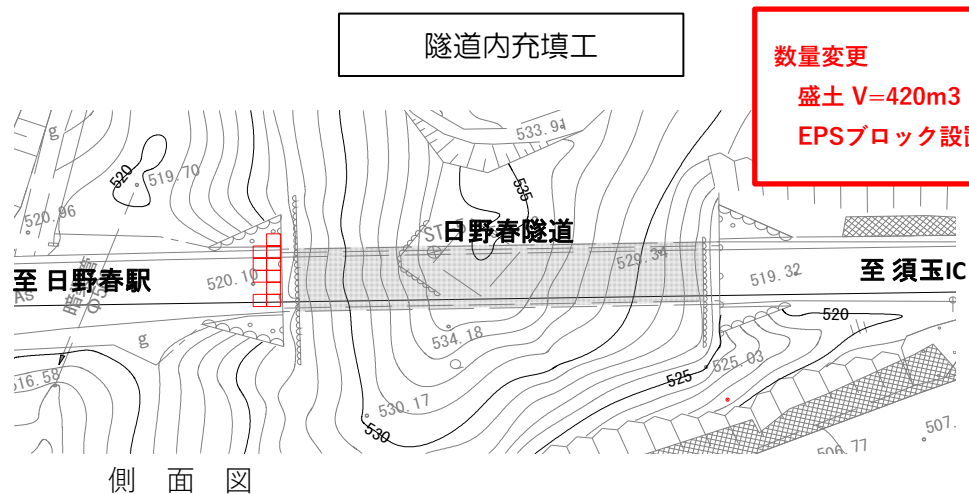
日野春隧道内でのすれ違いが困難なため、
トンネル前後で退避しなければならない。



3.添付資料シート（3）

変更内容① 隧道撤去工における安全対策（隧道内充填工）の追加

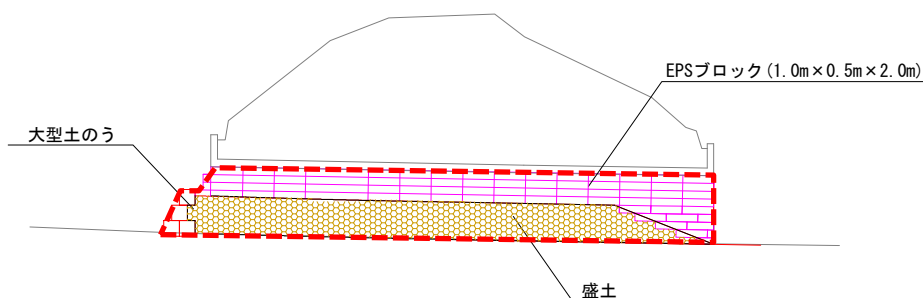
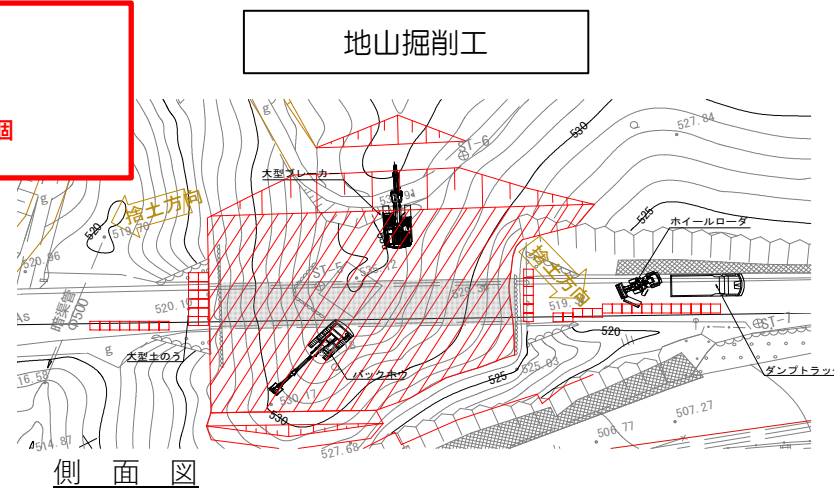
隧道本体の老朽化が進行しており、隧道撤去時の地山掘削によって隧道に変位や破壊などが生じる可能性があるため、安全対策費（隧道内充填工）を追加した。



数量変更

盛土 $V=420\text{m}^3$

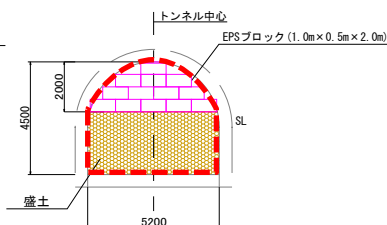
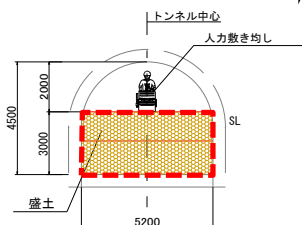
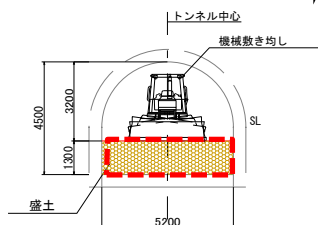
EPSブロック設置 $N=216$ 個



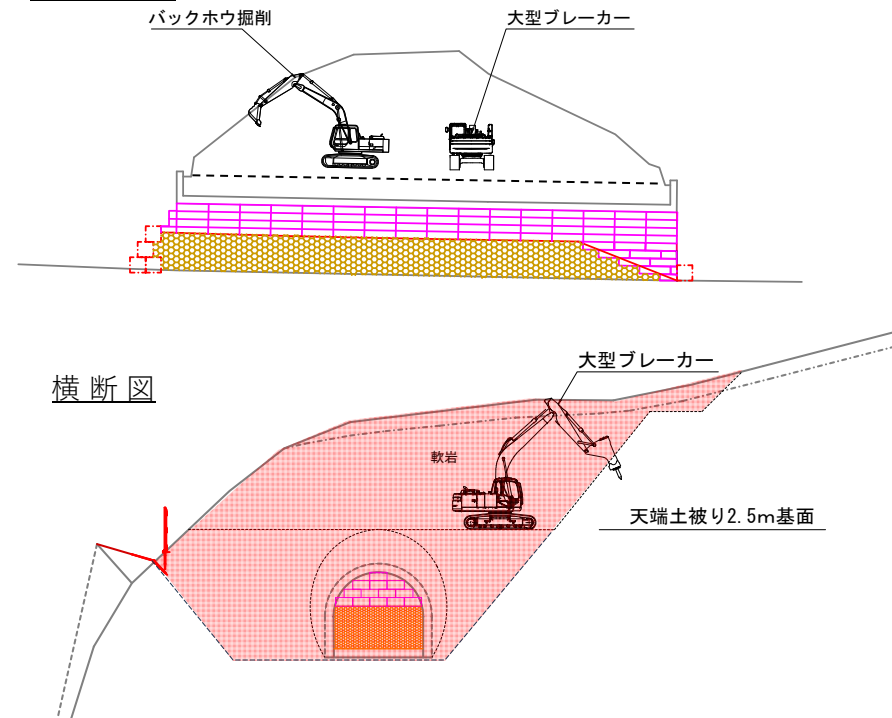
盛土敷均し作業
(ブルドーザー)

盛土締め・転圧作業
(振動ローラ)

充 填 工



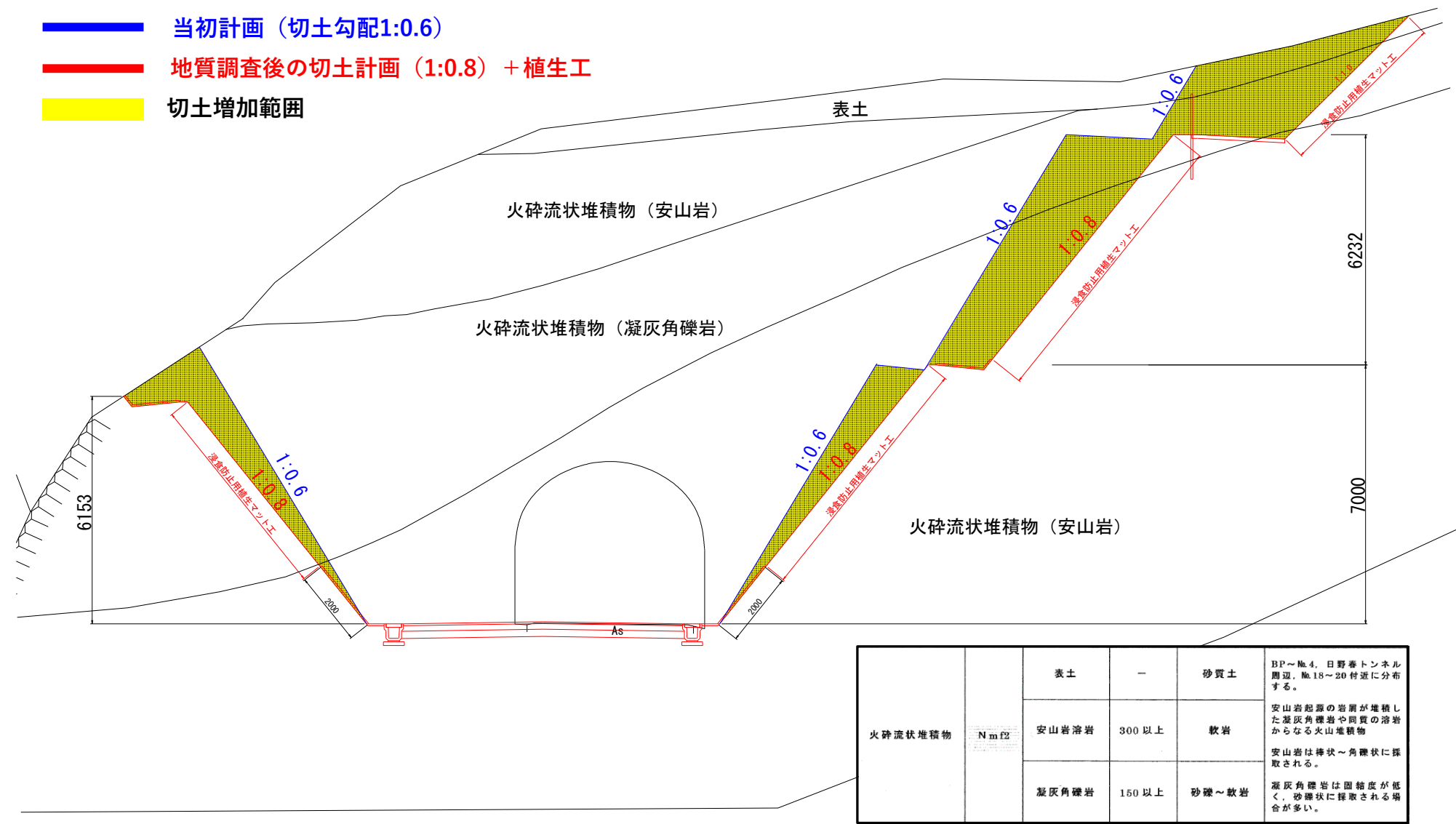
横断図



3.添付資料シート（4）

変更内容② 地質調査結果に伴う残土処理量の増加

地質調査の結果、日野春隧道付近は火砕流堆積物（軟岩）であることが判明したため、切土勾配を変更し、残土処理量及び処分費用が増加した。

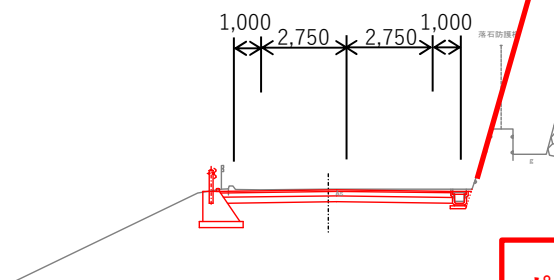
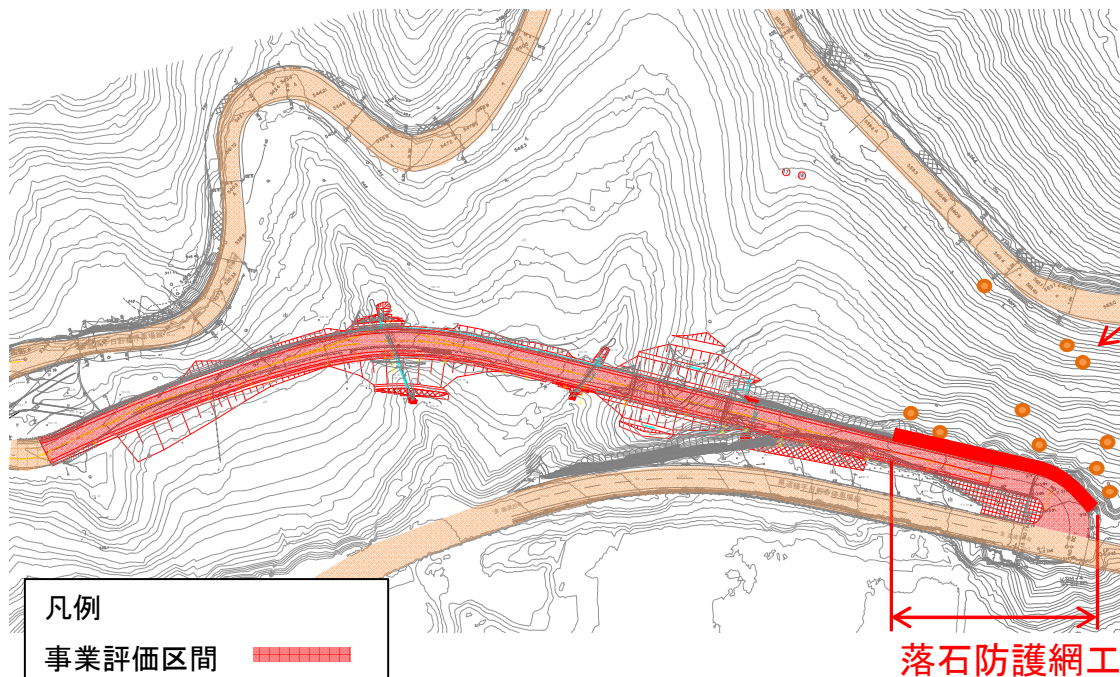


火砕流状堆積物	N m ²	表土	—	砂質土	BP～No.4、日野春トンネル周辺、No.18～20付近に分布する。 安山岩起源の岩屑が堆積した凝灰角礫岩や同質の溶岩からなる火山堆積物 安山岩は棒状～角礫状に採取される。 凝灰角礫岩は固結度が低く、砂礫状に採取される場合が多い。
		安山岩溶岩	300 以上	軟岩	
		凝灰角礫岩	150 以上	砂礫～軟岩	

3.添付資料シート（5）

変更内容③ 落石対策工の追加

法面詳細調査により山腹斜面上部に落石のおそれのある浮石を複数確認し、落石対策として落石防護網工（ポケット式ロックネット）を実施することとしたため、工事費が増加した。



ポケット式ロックネット設置
H=13m A=680m²

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
R3	24,825	現地測量、道路詳細設計	5.9%
R4	10,592	道路詳細設計	8.4%
R5	2,933	用地測量	9.1%
R6	168,319	施工計画検討（隧道撤去）、用地補償、道路改良工事	49.2%
R7	39,021	用地補償、道路改良工事	58.5%
R8	6,000	用地補償	59.9%
R9	5,000	用地補償	61.1%
R10	55,000	道路改良工事	74.2%
R11	50,000	道路改良工事	86.1%
R12	50,000	道路改良工事	98.0%
R13	8,310	道路台帳整備	100%
合計	420,000		